

アクセス

推奨人数 : 3~5人
プレイ時間 : テキスト4~6時間
 ボイス2~3時間

シナリオ使用上の注意

ゲームをプレイする目的でのみ、手記類をコピーしても構いません。

リプレイの公開は媒体を問わず自由とします。ただし、公開にあたってはシナリオ作成者「bubudog」の名前を必ず明記して下さい。

セッション時の改変は自由に行なって構いません。改変後の再配布は不可とします。

シナリオの著作権は bubudog に帰属します。

■連絡先

burudogdod@gmail.com
https://twitter.com/bu_budog

0. はじめに

本作は菅田哲也氏の小説「アクセス」を題材に作成しております。

このシナリオは、グロテスクな表現、暴力的な表記を含んでおります。苦手な方はご注意ください。

■シナリオ作成者

bubudog

■推奨プレイ人数

3～5人。2人でも稼動可能だが、選択の幅が狭まる可能性がある。

■プレイ時間の目安

オフセッション、スカイプなどのボイスセッション：2～3時間

テキストチャットオンリー：4～6時間

■探索者について

本シナリオにおける探索者は全員、同じ学校に通う「高校生」である。

「携帯電話の料金が無料になる」という動機に接点を持たせやすいこと、短時間でセッションを行うにあたり、関係性を作りやすいことなどから上記の通り設定した。同じクラス、部活、委員会など、何らかの共通点を持たせることで、更にスムーズにスタートすることができるだろう。

探索者は高校生だが、通常の探索者作成ルールを適用して構わない（＝大人と同じ作り方でOK）。理由は単純で、学生に見合わぬ高い技能値があったとしても、本シナリオの解決には何ら影響が出ないからである。もちろん、クトゥルフ2010（140P）に記載されている「学生探索者の創造」を適用した探索者を使用しても構わない。

1. 物語の概要

PL向けあらすじ

あなたと同じ学校に通う友人の中に、麻月可奈子という少女がいる。彼女はあなたにこんな提案を持ちかけた。

「ねえねえ、携帯電話とネット料金が無料になるアンケートがあるんだけど、協力してくれない？」

可奈子はネットに詳しい人間ではなく、詳しい話を聞いても首をかしげるばかりで、曖昧な内容しかわからない。ただ、「あるアンケートに答えれば、携帯やネットの料金がすべて無料になる」「実際に、自分の友達も携帯電話の料金が無料になった」と主張するばかりだ。アンケートに関して詳細な話をする前に休み時間が終わってしまった。続きは放課後に、と可奈子は言ったが……実際に話をする前に「ごめん、やっぱりいいわ。よく考えたら、何か怪しいもんね！」と笑って、さっさと帰ってしまった。

次の日、可奈子は学校を休んだ。翌日も、その翌日も学校には来なかった。

KP向けあらすじ

麻月可奈子はある日、近所に住む幼馴染の石塚尚美と街でばったり出会った。

家が近く、同じ年ということもあり、小さな頃から一緒に遊んでいるが、進学した高校が違うため、最近是一緒に過ごす時間が少なくなっていた。駅前のカフェでお茶をしながら、互いの近況を報告しあう。自然と会話は弾み、二人は思いがけず長時間話しこんだ。帰り際になって、尚美が携帯を取り出し、可奈子に向かってこう言った。

「携帯電話とネット料金が無料になるアンケートがあるんだけど、協力してくれない？」

尚美の話では、アンケートに答えて、その結果をネット上で登録すると、携帯電話やネット料金が無料になるという。ただし、ネットワークに関連するすべての料金が無料になるのは、自分が回答を登録した後、さらに友達を一人紹介して、その友達が同じようにアンケートに答えてからだという。可奈子はその場で断りきれず、促されるがままに、専用サイトでアンケートに回答し、個人情報を含めた内容を登録してしまった。尚美の話はどこかおかしいと感じたが、ネットに疎いために否定ができなかったのだ。尚美がその場で料金明細を確認すると、請求額はゼロになっていた。幼馴染の彼女は喜び、可奈子は首を傾げつつも肩を並べて帰宅した。二人は最寄の路地で別れて、それぞれの自宅に戻った。

その日の夜、コンビニに買い物に出かけた尚美は交通事故にあった。幸いにも大きな怪我はなく、ショックで気絶しただけだったという。病院に運ばれたものの、翌日には退院していた。母親からその話を聞いた可奈子は学校帰りに見舞いに行ったが「死ぬほどびっくりしただけだっつーの、ばーか」とけんもほろろに追い返された。つい先日あれほど親しく会話をしていたというのに、「死ね」「クズ」など汚い言葉で罵られ、可奈子は傷心のまま自宅に戻った。先日のカフェでの会話は、アンケート結果を回収するためだけに話をあわせていただけなのかと思うと、悲しくて涙が出た。実際はこの事故の時点で尚美は《悪意の権化》に肉体を乗っ取られており、別人と化している。

それから数日後、可奈子は学校で友達に、例のアンケートに協力してもらえないか頼んでみることにした。いろいろと胡散臭い部分はあるが、自分の携帯料金がタダになるのだ。限られたお小遣いで生活している学生にとって、携帯料金の負担額はかなりのものである。だが、友達に話しているうちに、やはり何かがおかしいと感じた。何の見返りもないのに料金がタダになる理由はどこにあるのか。もしかして後で法外な料金を請求されるのではないか。不安になった可奈子は結局、誰にも詳しい話をせずにその話を打ち切り、自宅に戻った。

家に戻ると、尚美が遊び来た。突然の来訪を不審に思いながらも、可奈子は幼馴染を自室に招き入れる。次の瞬間、彼女は尚美に襲われた。スタンガンで気絶させられ、縛られる。

その上で、尚美はナイフを持ち出し、心臓に向かって思い切り突き刺した。「殺される！」「死ぬ！！」そう思って可奈子が目を閉じ、身を硬くした次の瞬間―一体に大きな衝撃が走り、気がついたら真っ暗な闇の中にいた。そう、可奈子の魂（精神）は肉体から追い出され、見たことも無い暗闇に閉じ込められてしまったのだ。

からっぽになった可奈子の肉体に、別の魂が入り込む。それは《悪意の権化》ともいえるもので、尚美の体に入っているものと同じ魔物だった。尚美もまた、同じように《悪意の権化》に体を奪われていたのだ。

探索者に与えられた命題は、可奈子の肉体を取り戻すことである。《悪意の権化》は、殺される！」「死ぬ！！」と感じた瞬間、その隙を狙って魂を追い出し、肉体を奪う。可奈子の肉体から《悪意の権化》を追い出す方法も同様で、もう一度「殺される！」ないしは「死ぬ！」と意識させ隙を作ってやればいい。果たして探索者は、無事に友達を救い出すことができるのか…？

■可奈子が閉じ込められた暗闇の正体

バベッジ・インコーポレイテッド（クトゥルフカルト・ナウ P23）が設置・所有しているサーバーの内部。サーバー内部にはネットワーク上に存在する不特定多数の匿名の悪意が満ちている。Twitterやブログが炎上する際のエネルギーを想像すればわかるように、ネットワークのは「匿名の悪意」が少なからず存在する。それがバベッジ・インコーポレイテッドが管理するサーバーに集積されてしまった。肉体から押し出され、サーバー内部に閉じ込められた人間は、ぶよぶよとした質感ののっぺらぼうに襲われる。傷つけられ、奪われ、犯され、食られるが、あくまでもデータ上の話だ。気を強く持てば死ぬ事はない。とはいつても休み無くいたぶられ刪られ内蔵をつかみ出されて犯されれば大抵の人間はそこで発狂してしまうが。

■バベッジ・インコーポレイテッドとは？

詳細は「クトゥルフカルト・ナウ」を参照。

1983年に創立した企業。コンピューターネットワーク分野で最先端に行く。

表向きはIT企業だが、その実態はハスターを崇拜するカルトである。バベッジ・インコーポレイテッドのIT関連のテクノロジーは基本的にすべてハスターやその眷属へアクセスするために構築されたものだ。また、バベッジ・インコーポレイテッドの企業理念は「一人の妄想はネットワークを通じて無限に広がり、無数の人間の妄想になっていく。その過程で妄想は現実を侵食し、やがて入れ替わる」という非常に胡散臭いもの。裏向きのカルトとして、思念によって人間を操る制御チップや、考えるだけでロボットを動かす精神感応装置などを開発している。今回の事件は、それらのダークサイドな器材を動かすために密かに設置されたサーバーに不特定多数の人間の悪意が集積してしまったことが原因で発生した模様。

今回遭遇する神話生物

【悪意の権化】

ハスターの眷属で、奉仕種族に該当する。オリジナルのクリーチャー。

目の前の人間が「死」を意識するほどの恐怖を覚え怯んだ瞬間、無条件でその肉体をのつとることができる。実際に肉体を傷つける必要はないが、仮に傷ついたとしてものつとる行為に支障はない。パラメーターはのつとった人間と同じ数値をとる。

N P C情報

【麻月可奈子】高校2年生

探索者と同じ学校に通う女子生徒。

重度の蕎麦アレルギー。エビペンと呼ばれる専用の対処薬（注射）を所持している。明るく元気で、ハキハキとしている少女。友達を大事にするために、断りきれず貧乏くじをひくことがある。あまりネットには詳しくない。

☆エビペンとは？

アナフィラキシーがあらわれたときに使用するアドレナリン自己注射薬。症状の進行を一時的に緩和する効果がある。太マッキーくらいの大きさで、体に押しつけることで投与する。持ち歩いているだけでなく、自宅にも在庫がある。

【麻月和泉】

可奈子の母親。料理上手で娘思いの善良な母親。

【石塚尚美】高校2年生

可奈子の幼馴染だが違う学校に通っている。おしゃべりが大好きな女の子。

探索者と知り合いだと情報管理が面倒になるので、全く関係のないポジションに配置したほうがいだろう。

2. 導入

最初の舞台は学校の食堂。

この学校には大きくて広い食堂があり、探索者と友人NPCの麻月可奈子は昼休みにご飯を食べながら雑談している。探索者と可奈子は相互に顔見知りで、可奈子自身が話しやすいキャラクターということもあり、学年やクラスが違っても同じテーブルで食事をとることに違和感はない。

可奈子は弁当を持参している。彼女は重度の蕎麦アレルギーだ。蕎麦系食品を口にしてしまうと、アナフィラキシーショックをおこして倒れてしまう。場合によっては命にかかわる。よって昼食はいつも母親手製の弁当を食べている。

母親手製の弁当をおいしそうに完食したあと、思い出したように鞆から小さな包みを取り出した。それは和菓子屋の袋だった。彼女は食べる前に成分表に目を通し、ため息をこぼした。和菓子には蕎麦粉が含まれており、可奈子は食べることが出来なかった。

K P メモ

蕎麦アレルギーは極めて重要な情報なので、導入時に必ず伏線として展開しておくこと。特にアレルギーと無縁の生活を送っている人は、この伏線に気がつきにくい。「蕎麦アレルギーの人間が蕎麦を口にすると生死にかかわる」くらい強めに印象づけておいた方がいい。また、彼女はそうした体質のためにエピペンという自己注射薬を所持していることをこのタイミングで説明しておくこと（エピペンについてはNPC麻月可奈子の項目を参照）。

その後、更に可奈子は探索者に対して、こんな話を持ちかける。「ねえねえ、携帯電話やネット料金が無料になるアンケートがあるんだけど、誰か協力してくれない？一人でもいいんだ！」

可奈子の話では、携帯電話やネット料金が無料になるアンケートがあるという。無料の恩恵を受けるためには、自分がアンケートに答えるだけでなく、友人を紹介し、その友人にもアンケートに答えてもらう必要がある。いわゆるねずみ講やマルチ商法と呼ばれる無限連鎖がそこで発生している。可奈子は幼馴染である尚美のために、既にアンケートに答えている。彼女は自分自身も「無料」の恩恵を受けるために、アンケートに答えてくれる友人を探しているのだ。

可奈子はネットに詳しい人間ではなく、どのような仕組みで料金が無料になるのか、探索者が尋ねても曖昧な回答しか返ってこない。ただ、「アンケートに答えれば携帯やネット料金がすべて無料になる」「実際に友達も携帯電話の料金が無料になった」と主張するばかりだ。

アンケートについてつっこんだ話をするまえに休み時間が終わってしまう。「続きは放課後で！」と言い残し、教室へと帰っていった。放課後になるとすぐに「ごめん、やっぱいいわ。よく考えたら、何か怪しいもんね！」と笑って、さっさと帰ってしまった。彼女自身、心のどこかで怪しいと思っていたようだ。

次の日、可奈子は学校を休んだ。翌日も、その翌日も学校には来なかった。

3. 訪問

可奈子が三日連続で学校を休んだ日の放課後――

探索者たちは配布されたプリントや宿題を持って麻月宅を訪ねることにした。探索者の中に同級生、同じ部活、委員など、親しい関係のものがいれば担任の教師から依頼が入ることだろう。クラスや部活に縁のある生徒は麻月可奈子の家を知っている。誰も家の場所を知らない場合は、教師が教えてくれるはずだ。可奈子の家は学校から徒歩圏内にあり、のんびり散歩がてらの移動となる。

道中、葬儀をやっている家の前を通過する。よく見ればそれが「石塚家」の葬儀だとわかる。来客は制服を来た学生が多いが、探索者たちの学校ではない。これも伏線として非常に重要になるため、必ずこのタイミングで提示しておくこと。もし誰が亡くなったのか

調べようとした場合は「石塚尚美（いしづかなおみ）」という名前までならば出して構わない。弔問客である学生たちは噂話をしている。呼び止めて【言いくるめ】や【説得】で話をきいたり、【聞き耳】をたてたりすれば内容を把握する事ができる。

【！】開示される情報

- ・石塚尚美は学校の屋上から飛び降りて自殺した。
- ・自殺の数日前に交通事故にあった。ただし、その事故ではほとんど無傷だった。
- ・事故直後から性格がガラリと変わった。口調が乱暴になり、クラスメイトを殴るなど暴力的になった。早い話が、別人のようになってしまった。

葬式をしている家の前を通過し、少し歩くと、目的地である麻月家が見えてきた。遠目に、玄関で何やら揉めている様子が見て取れる。玄関口でもみ合っているのは、可奈子とその母親のようだ。可奈子の背後から母親とおぼしき女性が追いつがつているが、彼女はそれを突き飛ばし、走り去ってしまう。可奈子は悪意にとり憑かれたような形相をしていた。同時に可奈子は、学校を休んでいたとは思えないくらい、とても元気そうに見えた。【聞き耳】に成功した人間は次の会話を耳にする。

母親「尚美ちゃんのお葬式にも行かないで！どうしちゃったのよ！」
可奈子「ウルセエ！死ぬ！このクソババアが！！」

探索者が走り去った可奈子を追いかけようとした場合は、あつという間に走り去ってしまったか、タクシーを拾ったなどの理由をつけて、追跡が不可能である旨を告げる。

改めて麻月家をたずねると、母親である麻月和泉が対応する。彼女は娘に突き飛ばされたショックで地面に座り込んだままだった。母親の手足にはほす黒い痣が散見された。また彼女はとても疲れている様子で、目の下にクマがあり、やつれていた。

彼女は探索者に対し「3日前から娘の様子がおかしくなってしまった」「まるっきり人がかわってしまったよう、異常な食欲で何でも食べる」「少しでも口答えをすると家の中で暴れる」などと窮状を訴えて、その場で泣き出してしまう。

取り乱した可奈子の母親に対し、宥める言葉をかけ、優しく接してやればすぐに落ち着く。可奈子の家は母子家庭で父親は不在。彼女は誰に相談していいのかもわからず困り果てていたようだ。探索者が事件の解決について提案したり、可奈子の部屋の搜索を申し出た場合は、二つ返事で受諾する。探索者側から申し出がない場合は、可奈子の母親が娘をもとに戻したい一心で探索者たちに調査を依頼する。彼女の依頼を受けると、麻月家内部、及び可奈子の部屋を探索できるようになる。

【！】K P メモ

可奈子は一度出かけると夜まで帰ってこない。また、可奈子は携帯を持ち歩いていない。可奈子がどこに出かけているのか母親は知らないが、夕飯の時間には必ず帰宅する。豹変した可奈子がどこにいるのか誰も知らないため、街を探しに出ても彼女と出会う事はない。仮に探索者が彼女を探して街に出ようとした場合は、その旨を必ず説明すること。可奈子と会

「話がしたいのであれば、麻月家で帰宅を待つしかない。」

4. 探索

玄関

玄関には泥のような汚れがある。よくみるとそれは動物の血だった。靴箱の陰に、引きちぎられた鳩の首が落ちている。SAN値チェック：1/1d3

玄関を【目星】で探せばすぐに見つかるだろうし、【幸運】に失敗した探索者が運悪く見つけてしまうかもしれない。現状の異様さを印象付ける道具として登場させる。母親の話によれば、食事が満足できなかった腹いせに、公園で捕まえてきた鳩を生きたまま貪り食ったのだという。

可奈子の部屋

白とピンクを基調とした女の子らしい部屋だが、室内は荒れており、汚れていた。随所に土足で歩き回った痕跡があり、食べかすやゴミなどがそのまま放置されている。机とベッド、それにクローゼットがあるだけの簡素な部屋だ。室内に【目星】をかけていくことで次の資料が発見できる。

■机——1枚のアンケート用紙を発見する

それはアンケート用紙だった。「回答はwww.tomb.netまで」と印字されている。アンケートというには簡素すぎる印象を受ける。tomb＝墓場ということはリアル英語知識で解説してもいいし、不明の場合は【英語】や【知識】などで判定させてもいい。

裏面には細かな文字がびっしりと書き込まれている。タイトルは「個人情報保護、及び各種使用料金に関する規約」となっている。規約の内容は学生にとっては複雑すぎて一読しても意味がわからない。解説には【母国語】が必要。

【母国語】を使用し、規約を細かく読み込んでいくと次のことが判明する。個人情報に関しては、プラバシーマークやISO規格といった各種情報保護の基準を満たすまともな内容だとわかる。料金に関しては、彼女が学校で言っていた通り、すべてのネットワークに関連する料金が無料になる旨が記載されている。【アイデア】で解約に関する内容が一切記されていない、ひどくバランスの悪い内容であることに気がつく。アンケートというよりは何かの契約書のようなのだ。

■ベッド——日記を発見する

◎7日前の日記

本当に携帯がタダになるっていうけど怪しいな。

友達を紹介しないとタダにならないってやばい気がする。

でも、…尚美が言うから登録しちゃったあ。

料金もタダになってたっばいし。どうしよう。

◎5日前の日記

尚美が交通事故にあったって聞いてびっくりした。

でもちょっと頭を打ったくらいで怪我はないみたい。よかった。

すごい心配したのに「死ぬかと思うほどびっくりしただけだよ、ばーか」って笑ってた。

馬鹿って何よ、心配したのに、もう！

そういえば尚美に馬鹿にされたのってのはじめてかも。

◎4日前の日記

最近何かに見られてる気がする。ストーカー？親の監視とか？まさかね。

どこにいてもすぐ近くで見られてる感じがして、すごく気持ち悪い。

◎3日前の日記

アンケートの登録をしてくれそうな友達を探してみたけど、

胡散臭いからあんまり強くすすめられないんだよなあ。

尚美も何かおかしいままだし…。どうしよう…。

■クローゼット——スタンガン、ロープ、ナイフを発見する。

スタンガンやロープは本物だが、ナイフは偽物で、刃の部分を押迫すると刃物が引っ込む手品用品。ナイフに対する【目星】や【アイデア】で、それらを告げてもいい。どれも新品ではなく、使用した形跡がある。

■床——可奈子の携帯電話

部屋には彼女の携帯電話が落ちており、部屋を見渡せば誰でも発見する事ができる。通話やメールの履歴はどれも他愛ないもの。ネット閲覧の履歴は一件だけ。アンケートに記載されている【tomb.net】に接続する。

【!】KPメモ

「アンケート」「ナイフ・ロープ・スタンガンの三点セット」「可奈子の日記」この三つのアイテムは必ず出現させること。学校靴の中やベッドの下など、隠し場所は柔軟に変更して構わない。本作において重要な要素は「情報を探り出すこと」ではなく「揃った情報をいかに活用するか」にある。よって、情報不足で解決できない、という事態はできるかぎり回避するように。

5. tomb.net

探索者が手持ちの携帯、タブレット、ないしは近隣のネットカフェで「www.tomb.net」と入力すると次の画面が表示される。

画面には、一杯の闇が広がった。タイトルも何も出てこない、ただの黒い、闇だ。一見して、真っ暗で、何も表示されていないような印象を受ける。だがよく見てみると画面がスクロールすることがわかった。マウスでスクロールバーを引き下げて画面を下方にずらす。すると初めて意味のある文字が出てくる。

次の項目を入力して下さい

- ・名前、性別、生年月日、住所、電話番号、携帯電話番号
- ・現在使用しているプロバイダのドメイン
- ・現在使用しているプロバイダのメールアドレス
- ・現在使用しているプロバイダのメールサーバー
- ・現在使用しているアドレス
- ・紹介者の契約 ID
- ・希望する契約 ID

それぞれに入力する欄があり、最後に送信ボタンがある。どこにも「無料契約への申し込み」という文言はない。契約に関する仕組みの説明なども存在せず、入力画面だけが忽然と現れる。【コンピューター】や【アイデア】に成功すると、ページ内部に次の文言が仕込まれていることに気がつく。それは背景と同じ文字色で記述されており、画面上に表示されることはない。だが、確かにその文言はページ上に存在するのだ。なお、画面すべてをマウスでドラッグして反転させたり、HTMLのソースを表示することも発見は可能とする。

我々には肉体がない我々には実態がない
我々には現実世界に出るための肉体が必要だ
以下に記入し契約を交わした者は
我々の望みに従ってその肉体及び実態を明け渡し
代わって我々の世界の住人となるべし
我々は現実世界で欲望を満たすために
あらゆる行動の自由を享受する

画面のどこを探しても契約解除に関する文言は記されていない。この文章を目にした探索者はS AN値チェック：1/1d3

6. アクセス

tomb.netの画面を見た後、探索者の会話が落ち着いたところで、部屋にある可奈子の携帯に電話がかかってくる。発信元は不明。だが発信者番号は表示される。画面に数字が

出た。それは見知らぬ番号だった（実際はバベッジジャパンのとあるサーバーのIPアドレスを表示している）。電話をとると、砂嵐のような雑音が響いた。雑音に混じって不思議な音がする。

「……◎◎（探索者名）……、わ、たし」
「わ、た、し、……か、な、こ……」
「か、な、こ、は、か、な、こ、じゃ、な、い」
「今、の、かなこ、は、かなこ、じゃ、な、い、体は、かなこ、だ、け、ど、中、み、は、ちが、う」
「しんじて、私、が、かなこ…信じて…」

ここで彼女を信じると、彼女は次の情報を探索者にもたらず。信じずに通話を切った場合は、時間切れとなる。BADEND ①へ直行。話を続けるうちに、途切れ途切れであった声は徐々に滑らかになり、普通に会話ができるようになる。探索者と可奈子との信頼関係が、通話を維持している。

■可奈子は探索者に対し次のように訴える

私と尚美はだまされていた。実体の無い得体の知れない魂、亡霊のようなものが、そちらの世界に出るために、通信料金がタダになる契約をばら撒いている。その契約が原因で、私たちは肉体を奪われて、真っ暗な闇の中に閉じ込められた。

ここがどこかはわからない。尚美の話ではサーバーの中らしい。闇の中にはのっぺらぼうの化け物がいる。のっぺらぼうにつかまると拷問される。実際に、自分が捕まったときは、包丁を腹部につきたてられ、内臓をぐちゃぐちゃにかき回された。ただし、こちらの世界では気力がものをいうらしく、痛くないと強く思えば傷は修復される。尚美曰く、データの復元に近いものがあるらしい。

気力がものを言うだけあって、心が弱くなるとあつという間に消えてしまう。先にこちらの世界に来ていた尚美は、自分を助けた直後、のっぺらぼうにつかまり、酷い暴力をふるわれて消えてしまった。今はなんとか一人で逃げ回ってるが、いずれ限界が来る。もう一度つかまったら、次はもう持たないだろう。

「だから、助けて、お願い」
「偽者の、わたしを、やっつけて。私のきつと体はそこに帰ってくるから」
「やっつけたら、この番号に電話をして。この電話は、私と外の世界をつなぐ唯一の手段。私がされたみたいに、偽者を体から追い出して。偽者がいなくなった私の体に、通話状態で、この電話をくっつけて。その体に戻るにはそれしか…（以下、音声遠ざかり砂嵐になって通話が切れる）」

会話を終えたらS AN値チェック：1/1d3

【！】KPメモ

KPは、探索者が可奈子に電話をかけることができるチャンスは「1度」しかないことを告げること。警告を無視して何度も電話をかけると、彼女はのっぺらぼうの化け物につかまり、拷問を受けて死んでしまうだろう（BADEND④に直行）。

（加奈子の台詞例）

「ここはどこかは、わからない。気がついたら真っ暗なところにいたの」
 「私は、まだ死んだわけじゃない。体は奪われたけど、でも、死んだのとは違うと思う。亡霊っていうか、なんかそういう、実体の無い得体の知れない魂が、そっちの世界に出るために、肉体をあげわたせていう契約だったの。私も尚美も、だまされてたの」
 「こっちで私は、とてもひどい目にあつた。体を引き裂かれて、内臓をぐちゃぐちゃにされた」

「でも、そのときは、尚美が助けてくれた。こっちでは、気力がものをいうみたいで。痛くないって強く思えば傷はなおるの。尚美が言うには、私たちはいまサーバーの中にあるデータと同じだから復元は簡単だとか何とかって…」

「でも、尚美は、私のせいでそのあとのっぺらぼうの化け物につかまって、体中の皮をはがれて、そしたら、……そしたら、消えちゃった…。たぶん、心が持たなかったんだと思う。私は、今は一人で逃げ回ってるけど、あいつらにみつかって、またあんなことされたら、もう耐えられないよ…」

7. 母親の話

情報として7番目に記してあるが、発生させるタイミングは任意。探索者が次の2点について質問をした場合、可奈子の母親はこのように答えること。

■石塚尚美について

可奈子の母親に「石塚尚美」についてたずねると、近所に住んでいる幼馴染だと判明する。学校は違うので探索者たちとのつながりはない。道中に見かけた葬式は、石塚尚美のものであった。母親は死因については、口を開きたがらない。あまり人にきかせたくない話で、石塚家からも口止めされているという。可奈子の友人としての【信頼】や【説得】など、交渉技能を使用することで話を聞くことができる。ロールプレイによる説得や加算補正なども許可して構わない。

【！】開示される情報

石塚尚美は自殺。学校の屋上から飛び降りた。一週間くらい前に、交通事故にあっている。だがその時は擦り傷程度の軽傷で、その日のうちに退院していた。一度娘の可奈子が見舞いに行っているが、からかわれて、追い返されてしまった。

■可奈子について

【石塚尚美】【アンケート】についてある程度把握した状態で母親に話しかけると、可奈子がおかしくなった当事の様子について情報を渡してくれる。別段探索者にたずねられず

とも、KPの裁量で「思い出したのだけれど…」と自分から切り出して構わない。

【！】開示される情報

三日前に石塚尚美が家を訊ねてきた。突然だったので、慌てて娘を学校から呼び戻した。その時、尚美の様子は少しおかしかった。風呂に入っておらず、洋服も汚れており、年頃の子らしからぬ不潔さがあった。心配だったので様子を伺っていたら、娘の部屋から大きな音がした。娘の声で「殺される！」という叫びが上がった。慌てて、ドアをノックしたが、中からは元気な声で「何でもない」という返事が返ってきた。それでも心配でドアをあけてみると、娘の胸にナイフが刺さっていた。慌てて駆け寄ったが、そのナイフは偽物で、ナイフの刃物の部分が引込む手品道具だった。尚美は悪戯だったと説明しケタケタと笑った。可奈子は悪戯に対して「死ぬほどびっくりしただけっつーの、馬鹿！」と大声で笑った。よく考えれば、娘の様子がおかしくなったのはそれからかもしれない。

8. クライマックス

可奈子の肉体を取り戻す方法は一つしかない。【偽】可奈子が「死んでしまうほどの恐怖」を体験させ、体から追い出す。その後、携帯から【真】可奈子に電話をかけて彼女の精神を呼び戻すのだ。

ただし、【偽】可奈子に「死ぬ」ほどの恐怖を与える方法は問わない。もっともオーソドックスなのは蕎麦アレルギーを利用したアナフィラキシーショックだ。【偽】可奈子は自身の肉体が蕎麦アレルギーであることを知らない。母親の協力を仰ぐか、探索者たちがうまく立ち回り、【偽】可奈子に蕎麦を食べさせると、【偽】可奈子は毒を盛られたと勘違いして苦しみのたうち体から出て行く。

母親の了承を得ることなく、彼女の目の前で可奈子に蕎麦食品を娘に食べさせようとすると、半狂乱になった母親が暴れ出し、妨害をするので注意が必要。娘のために正気を失い、探索者に襲い掛かるかもしれない。事前に母親に事情を説明して協力を仰ぐか、現場を見せないよう隔離する必要がある。【説得】【信用】【言いくるめ】などの交渉技能の出番だろう。

可奈子は蕎麦を食べると酷く苦しむ。毒を盛られたと勘違いして、昏倒する。そこでさきほどかかってきた番号に電話をすると、可奈子の肉体が大きく震えて、苦しそうにしながらも「ただいま」と呟き気絶する。あとは病院に運んで適切な処置をすればもとの生活に復帰可能だ。アナフラキシーショックによる死亡を心配する探索者がいた場合は、【アイデア】【幸運】で「エピペン」の存在を思い出させ、適切な処置を行えば死ぬことはないと確信させる。

蕎麦を利用したアナフラキシーショック以外にも、【偽】可奈子を「死ぬ!!」と思わせれば、当然ながら、クリア条件を満たす。台所にある包丁を使ってもいいし、素手で首を絞めるなどしてもいい。重要な判定要素は【偽】可奈子が「死ぬ!」「死んだ!」と思うかどうかだ。

可奈子はがくりとその場に膝をつき、うつ伏せになって身を丸めた。苦しみのうち、激しく悶絶しながら、やがて仰向けに転がり、手足を針金のようにピンと伸ばした。その様子は明らかに常軌を逸していた。背骨が折れるほど大きく反り返り、ぶるぶると、大きな痙攣を繰り返す。やがて電池がきれたようにガクリと突っ伏し動かなくなった。

空白を打ち破ったのは、可奈子の咳き込む声だった。苦痛の表情はそのままだが、閉じられた彼女の瞳からは涙が溢れている。あなたたちはそんな彼女の目をみて、いつもの可奈子が戻ってきたのだと直感した。

その日の帰り道、君たちは可奈子のような《悪意の権化》に肉体を奪われた者たちに襲われる。薄気味の悪い笑みを浮かべた人間たちに囲まれ、車の中に、路地裏に、物陰に、引きずり込まれた。暗い闇の中で暴行と陵辱を受け、身体を明け渡す契約を強制される。そのまま死の間際までリンチを受け続け、意識を手放したところで中身は悪意の闇に落とされた。

闇の中で、あるものは全身を細かく切り刻まれる。

またあるものは肉を生きのまま食い潰される。

あるいは仲間の死肉を食わされて生き続けることを強要される。

そんな《悪意の権化》に飲みこまれ、君たちは永久に肉体を失う。

——探索者ロスト。

10. 最後に

舞台背景やNPC設定に関しては、自由に変更可能である。複数名設定しているが、当該NPCを使用する必要は無い。名前、背景、性別、年齢などを自由に設定して構わない。NPCの設定によっては、大学のゼミや社会人の趣味の集まりなどが導入時の舞台となるだろう。

「携帯電話の料金を払いたくない」という動機を持たせやすいこと、短時間でセッションを行うために関係性を作りやすいこと、以上の2点から学生探索者を推奨としたが、これもまた、遵守する必要はない。シナリオのギミックを維持するため、麻月可奈子に該当する人物の「体質」については設定を変更しないこと。変更する場合は、代替手段を考案した上で行うこと。